



学校だより

# なかのかみ

ホームページ <http://www.naka-sho.kainan.ed.jp/>

校訓

至誠

令和3年5月10日

第3号

海南市立中野上小学校

## 子育て四訓

### ◆乳児はしっかり 肌を離すな

肌と肌を触れ合わせることで赤ちゃんは「守られている」「かわいがられている」と無意識のうちに感じ安心する。それが、愛情や信頼、情緒安定、他人を思いやる心など、人間形成の基盤になる。

### ◆幼児は肌を離せ 手を離すな

一気に離すのではなく、親がそばでいることで、「心配しなくてもいいよ」という安心感を与えることが大切である。周囲やいろいろなものに関心を持ち始め、自立させるための第一段階。親子の絆を大切にし、温かい家庭をつくることである。

### ◆少年は手を離せ 目を離すな

友達とのつきあいによって社会性が育つときなので、活動範囲を広げてやらないといけない。ただし、危険性もあるので、目を離してはいけない。この時期には、反抗期で問題行動が起こったり、苦しい時期だが、成長の過程でもある。親として逃げず、共に成長することを心がける。「こちらを向いてほしい」というメッセージであることが多い。

### ◆青年は目を離せ 心を離すな

自立していくために自分の進路を歩んでいくときであるが、気持ちの上では、心を離してはいけない。親は子育てに責任を負うという基本を忘れてはいけない。

上の「子育て四訓」は山口県で長年教育に携わって来られた方が唱えたものです。おおまかに分けると、「手を離すな」の時期は、幼児と言う表現を使っていますが、小学校前半もまだまだそこに含まれるのではないのでしょうか。スキンシップが大切な時期となります。少しずつ手を離しながら、見守っていく時期に進んでいきます。小学校後半から中学校は「目を離すな」の時期で、自分で考え、判断し、行動できる力をつけていく段階ですが、全てまかせきりということではなく、しっかり見守り、その子の発達段階に応じた支援や声かけが必要だと思います。

「子育て四訓」は、それぞれの子どもの成長過程で、親として（または教師として）、子どもと向き合うことの大切さ、また、共に成長することの大切さを表している言葉のように感じています。

学校長 小阪 一起

## 防災訓練

4月26日（月）に、本年度1回目の防災訓練（火災避難訓練）を行いました。今回は担任等が教室にいる授業時を想定して、教師の指示のもと行動しました。毎年どこの学校でも避難訓練をしているのは、落ち着いて判断し、どう行動すべきかを身体で覚えるためです。

火災避難の場合は「静かに行動」「押さない」「火元には近づかない」「煙が出ている場合は、ハンカチを口に当て煙を吸わないようにする。」などの行動をすることが大切であることを確認しました。子どもたちは訓練に真剣に取り組めたと思います。2学期は地震を想定した避難訓練を行う予定です。

写 真

朝の15分間を利用して、漢字や計算等の基礎学力の充実にあてています。（集会等を行う場合もあります。）教科の授業の内容について取り扱い、国語では、漢字の練習や教科書の音読等、算数では計算等の基礎学習をしています。子どもたちの学力向上につなげていきます。

（デジタル教科書を使い、新出漢字の練習をする3年生）

写 真

## 休憩時間

朝の始業前、大休憩、昼休憩は多くの子どもたちが運動場に出て、ドッジボール、サッカー、鉄棒、ブランコなどで元気に遊んでいます。学びは教室の中だけではありません、遊びの中から学ぶこともたくさんありますね。

写 真